

2009年6月21日

都道府県対抗全日本女子大会 於：岡山県武道館
ルネッサンススピーチ
真壁友枝

大切な試合の合間の時間を少しだけいただき、お話をさせていただきます。

2001年から始まった、この柔道ルネッサンス活動も、今年で8年目を迎え、皆さんの中にもすっかり浸透してきているのではないかと感じています。

皆さんも会場に入る際、少し恥ずかしくなる程の大きな声での「おはようございます」という挨拶に迎えられたのではないのでしょうか。

大きな声での挨拶から始まる、大会運営に関わる皆さんの姿勢が、今年で25回目を数える今大会が長く続いた理由のひとつではないかと思えます。



昨日の試合も観戦させていただきました。出場している選手の皆さんの礼儀作法。サポートしている観客の皆さんの応援マナー。そして大会を支える先生方、その他関係者の皆さんの気持ちよい運営をとっても、柔道ルネッサンス活動が浸透し、実行されていると、きっと皆さんも感じていることと思います。

この大会で残念ながら最後となってしまいました。25回という長い歴史の中には、すばらしい記録と、皆さんの記憶に残る戦いが、たくさんあったことと思います。

全国大会がまだ少なかった昔、私の目標は地元で開催されるこの大会に出場することでした。この大会を見て、私がこんな風になりたい、とあこがれた様に、今日、この会場に来ている子供たちや、そのご家族、関係者の皆さんは、選手の戦いはもちろん、畳を降りたあとのその姿もみているでしょう。

中高生から実業団選手、世界で活躍する選手、さらには、ママさん選手までと、幅広い年齢層の各県代表選手が、1つのチームとなって戦うという、他にはない、この唯一の大会は、これまでたくさんの人達に大きな影響を与え、若い選手にとっては登竜門となり、全国へ、そして世界へつながったことでしょう。

この柔道ルネッサンスについても、柔道という柔の道を歩む者として、目標に向かって全力を尽くすこと。相手を思いやり、感謝の気持ちを持ち、共に成長すること。など、これまでもたくさんの先生方が、この場で呼びかけて来られました。この大会で根付き、引き継がれてきた、この柔道ルネッサンスの精神が、選手の皆さんの活躍と共に、全国へ、そして、世界へ広がり、羽ばたいていくことを願って、私の話を終わりにしたいと思います。

ありがとうございました。